KSKQ第三種郵便物認可<サロン・あべの>通巻4006号2003年3月15日

「書」の魅力

サロン紙表題を書いて

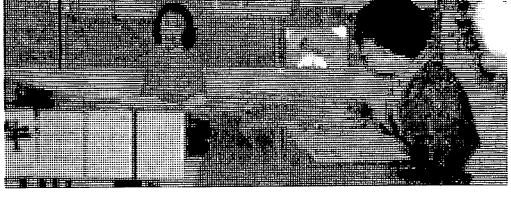
〈サロン・あべの〉2月の出会い

満開の梅の木に目白が飛び交う話が聞かれた平成15年2月15日（土）午後1時～4時、育徳コミュニティーセンター2階の研修室で、〈サロン・あべの〉2月の出会いは「書」の魅力―サロン紙表題を書いて―のタイトルで中西利香さん（サロン・あべの運営委員）にお話をしていただきました。

「サロン・あべの」紙の表題

中西さんの話にはいる前に、サロン紙の表題の移り変わりと、200号からサロン紙の表題が新しくなった経緯についての説明がありました。

「サロン・あべの」紙は昭和61年に第1号が発行され、この時はB5版（週刊誌の大きさ）に手書き。第3号から用紙は大きくなったものの依然手書きが続く。


作品を背に話す中西さん

〈サロン・あべの〉が1周年を迎えた第9号からワープロを使っての活字になり、今のスタイルのB5版の冊子となる。部数も増えてきたのでコピーから印刷に。この号から表題は活字体になった。

〈サロン・あべの〉に斉藤孝文さんから、当時通いだしたばかりの夜間中学の様子や自身の近況を書いた手紙と一緒に、半紙いっぱいに力強く書いた「月」という筆文字が送られてきた。この原稿と「月」は65号に掲載。この字を見て、斉藤さんに「サロン」という字をお願いしよう、味

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）

気ない活字の表題よりはるかにこの方がいい。66号から使用、その号の編集後記に「温かみのあるサロン活動をとの希いを持って使用…」と書いている。この字に「良い字、力強い字」などと、いろいろな感想がみなさんから寄せられた。

これは99号まで続いて、100号（記念号）から、井上憲一さんの筆になる「サロン・あべの」の表題に。

そして、200号になるのを機会に中西さんに表題をお願いした。

その経緯は…

平成7年の年賀状にさかのぼる。中西さんの年賀状は、それまでは、ワープロであったりボールペンであったり、ごく普通の年賀状であったのがこの年のは「牛」ただ1字毛筆で書かれていた。その迫力と字の暖かさに魅せられた。

平成9年に発行した「はーとが、はろー」に投稿された「初雪光る」の掛け軸を見て先々サロン紙の表題を依頼しようと、思いを固めた。その後も中西さんの年賀状は「寅」「卯」「龍」・・・と毛筆が続き、年毎に変わる内容に精進の後が伺え、これだけ書ける人ならと確信を持って依頼したのが上平幸雄さんがまとめた「サロン・あべのとは?」の冊子の表題。これを本紙の表題としても使いたかったが、縦書きでは無理があるので、横書きに再度書いてもらうようお願いしてできたのがこの字。もちろん「出会い　ふれあい　助け合い」の文字も中西さんの筆によるもの。

松村順子さんからの花束を手に

休憩をはさんで中西さんにお話を伺う前に、松村順子さんよりメッセージと花束の贈呈がありました。

「書」に魅せられて

学校時代は、お習字の時間は嫌いでした。手は墨で真っ黒になるし、紙は力を入れて書くので破れてしまうし、よく先生に「何を書いているの」と言われて、嫌で嫌で早く終わればいいのにと思っていたのですが、それが、本格的に習うようになるとは夢にも思いませんでした。

9年前、〈サロン・あべの〉の出会いで、「さおり織り」の講師の先生に来ていただいてお話を聞きました。その時、先生に私は「何も文化的なことができない」と話をすると、先生は「大きな文字は書けるでしょう。それなら書道を習ってごらんなさい」と言われました。でも書道なんて、私みたいな手に障害がある人はどこにも教えてくれる先生なんていない、と思ってあきらめていました。ところが、その年の9月に水泳をしにファインブラザ大阪に行ったときに、書道教室募集と書かれてあるのを見つけました。これは今思うと、本当にラッキーでした。探していた書道教室がこんなに早く見つかるなんて夢のようでした。

早速申し込みをしました。たった4回の短期教室なので、私は何が何かわけが分からない

ま、あーという間に終わりました。その時書いた字が「初雪光る」でした。

翌年も、翌々年も申し込みました。その時先生が「そんなに書道が好きなら私の教室に来てください」と言われてから、もう6年です。3年前からこの先生に紹介していただいて「かな」も勉強するようになりました。私はとても良い二人の先生にめぐまれて、教室の仲間にもとっても良くしていただいて本当に幸せです。

なかなかうまくなりませんけれど少しでもうまくなるように、これからもあせらず、無理せずに書道を続けていきたいと思います。

中西さんの話は、力強く聞く人に希望を沸き立たせてくれる温かい思いが溢れていました。「かな」は週に1度明石まで行かれるとの話にその熱意の深さを改めて感じながら、これまで書いてこられた作品の数々を拝見しました。今年の作品は「わが道をゆく」という2メートル近い長さの掛け軸でした。筆、心、体が三位一体になって紙に字を走らせるのですが、納得のいく字が書けるまでに100枚を超えるのはざらです。サラッといってのける中西さんに秘めたエネルギーを感じました。そして、自身もそのあたりに「書」の魅力を感じているのではないでしょうか。

書の心得のある人からは、その字の配置や字の基本形に賞賛が寄せられました。

出来ることと好きなことが一致してこそ、努力の花が咲くことを感じられた2月の出会いでした。

参加者15名（冨田慶子）

利香ちゃんの書

『初雪光る』を見せていただいたのは、もう十年近くも前のことになるのですね。私も丁度、生涯学習教室で書道を始めた頃で、書くことの楽しさや、それにも増して難しさを感じていました。あれから、中西さんと話す機会がある度に、ずっと続けていることや、仮名を始めたことなど半信半疑で伺っておりました。が、最新作の『わが道をゆく』他多くの作品を拝見して、個性的に書くよりは、むしろ基本に忠実に書く方が困難であろう障害を持つ彼女が、お手本通りに書こうと努力し、少しずつ基礎を身に付けていらっしゃる様子に感動しました。

これからも一層努力されて、いつか、利香ちゃんらしい、可愛くて、元気一杯の書が並んだ個展を開いてくださるのを、楽しみに待っています。

表谷恵美子

誰でも参加できる場所へ

第10回

渋谷公園の渋谷ハーブの会
（大阪府池田市）

林　典生

昔、私が大学院生の時に私の友人からコミュニティガーデン活動は私の住んでいる地域で行っていますとの話を聞き、その友人と一緒に行きましたが、すさまじい光景でした。

まだ、できたての公園なのに全くといっていいほど人影は見当たらず、真夏に行って、公園がこれだけ暑いとは思いませんでした。地面が一面に広がり、数千万で造られた飾りだらけの便所やモニュメントの類、それに比べて公園にあるべき植物が控えめに植えられていました。

しかし、こんな不利な条件の中で、普通の公園には見当たらないローズマリー、ラベンダーなどのハーブ類がたくさん植わっており、地域の人たちが必死に育てていました。

この活動は7年前に池田市の上渋谷地区にあったため池を埋めて渋谷公園が完成した時に、ある地域住民が公園の中で園芸活動ができるように池田市の公園関係者にかけ合ったのが始まりです。

しかし岩がかなり含まれる条件の悪い場所が活動場所になり、かつ完成当初の公園には水道はなく、水の確保のために地域の農業協同組合と対立していました。

つまり、その活動を始めた地域住民は新規造成地に住み始めた新住民であり、昔から住んでいる農家などの旧住民との対立が生じていたのでした。

この背景として、この公園自体、元々ため池であったものを使われなくなったのを埋め立てて造られた公園であり、お互いの住民にとってシンボルそのものであり、お互いの住民の感情にわだかまりを生じてしまったのです。

その後活動場所と反対側にある便所のモニュメントのために水道を公園内に引くときにも、ついでに公園の入口に水道が引かれたにすぎなかったのです。そのため、水をやるのに１００ｍほどみんな走りながらバケツで水をやっていました。

むしろ公園の入口にある活動場所がその時の工事と同時に行われた風車のモニュメントを作る過程で、底にコンクリートが敷いているため土を入れるのが少ないので、植物の選択が困難な状態になっています。

このような設備条件が悪い中で毎週火・土曜日の午前2時間で常に10数人のボランティアが参加してハーブを植え、収穫物を利用する等の園芸活動を行っています。

その過程でおばさんの趣味でどうせ長続きはしないと自治会や池田市公園関係者の予想とは裏腹に、徐々にではあるが地域の中で認知されるような状況が起こり始めました。

その後、当時の池田市長がこの活動現場を視察することで活動を評価するようになり、旧住民や公園関係者もその活動に受け入れられるようになり、現在ではこのコミュニティガーデンを中心に地域のお祭りが開かれるようになりました。

時間のつくりかた

テレビで、失礼だが、どう見たところで忙しく働いている様子がない人でも「時間がない！」と嘆いているのを見て、私も考えなければと思った。私だって、他人から見れば「時間がない！」などと言えない立場だろう。なのに、私の頭をいつも悩ましていることは「時間がない」ことである。

なぜ時間がないのだろう。一日は二十四時間、誰にも平等に与えられているというのに。

時間は無いわけではないのである。ボーッとしていることも多い。夜遅くなって、インターネットでニュースのページを何時間も読んでしまうことがある。テレビをついつい何時間も見てしまうこともある。

そんなときは「たまにはボーッとする時間も必要だろう」と自分を納得させているが、いよいよ寝る前になると眠気で鈍くなった頭で、なぜ今日一日をもっと有効に使えなかったのだろうと後悔することが続く。

何かしようとしても、しなくてはいけないことが山のようにあることを考えると、恐ろしい獣を前にして足がすくむように、何もできなくなってしまう。そんなときは部屋を何時間もかけて片付けたり、急ぐものではない雑用に手をつけ始めたりする。

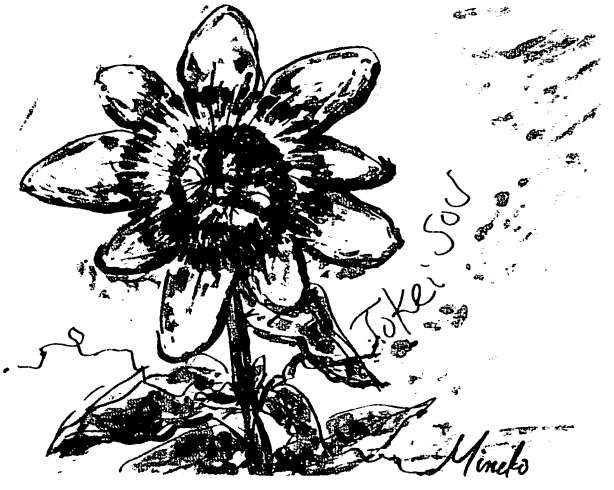
どうすれば時間をもっと無駄なく使えるのか。私なりに工夫してきたつもりだったが、なかなかうまくいかない。

一日をすべて十五分きざみに分けて、それで計画をつくれば良いと主張する本も読んだ。十五分間ならば、どんなに集中力が乏しい人でも集中できるからというのが、その理屈らしい。

果たして、驚くほど細かい日程表ができあがったが、すべてが無駄に思えるのには数日もかからなかった。十五分でできるような仕事は限られているのである。

それに時間がどれくらいかかるのか、仕事をする前にはわからないものだ。たとえば、このサロンの原稿が良い例で、いったい何時間かければ原稿が書けるのか、ほとんど予想できない。思いもかけず早く仕上がることもあれば、何時間考えても一行も書けないことだってある。

朝早く起きて、時間を得るという方法も試してみたが、早く寝ることは簡単にできても、早く起きることは難しい。起きても朝



刊をじっくり読んでしまって、それで終わりということもある。時間をずらしたところで睡眠時間は同じなのだから、時間が増えるわけではないのである。

そこで、ふと考えたのは、結局、私にとって問題なのは「時間がない」ことではなく、「時間がない」と思うことではないかということだ。一日の終わりに、今日できなかったことを考えるのではなく、今日できたことを振り返るのなら、「時間がない」と焦ることから解放されるのではないか。

時間をかけて何かをしたとしても、できた結果からは、それに費やした時間の量が見えてこない。たとえば、このサロンの原稿も何時間もかけて書いたとしても、結果は、たかだか二ページの文章である。もっと早く書けなかったのだろうかと、終わってみると、どうしてもそう考えてしまう。

結果からは充分に見えない時間に思いをよせれば、「時間がない」という慢性的な渇きにも似た苛立ちから自由になれるのかもしれない。自分が時間をかけて行ったことにもっと満足できれば、次の一歩にも自信がわいてくるような気がするのである。（知）

晴れのち晴れ 54

私の失敗

稲垣恵雄

長い人生には誰でも一つや二つの失敗はあるだろうが、私もこれまで失敗ばかりをくり返し、それをあげれば枚挙に遑が無い。

そんな中で今でも忘れることのできない失敗がある。たしか私が20歳前後のことだったと思うが、５人のペンフレンドと文通をしていた。言うまでもなく全員が女性だったが、どの人にも１週間に１度は心ときめかせて便箋にペンを走らせていた。そしてそれぞれ５人の方から返事をもらうと、胸をわくわくさせながら封を開けて読んだものである。

ところがこれだけで満足できなかったのか、あるいは欲が出てきたのか、某雑誌でもう1人のペンフレンドを見つけた。それですぐに手紙を書いて出すと、折り返し返事をもらった。その人とは5回ぐらい順調に続いただろうか。その人にはいつも文面の最初に季節のあいさつを書いた後「あなたは・・・」と文章を続けるのである。でも６回目の時はなぜか「貴女は・・・」と漢字で書いてしまった。するとその人からすぐに返事が届き、そのなかで「残念ながら私は男性で、女性ではありません」と書いてあった。そのペンフレンドは、「清美」さんという名前だったので、私はてっきり女性だとばかり思っていた。それがいけなかったのだ。

「清美」さんは私が男性だと分っていて文通をしてくれたのだろうが、それ以後どちらからともなく手紙を出さなくなってしまった。

それにしても何とお粗末でお恥ずかしい失敗であろう。

桃栗3年、
柿8年、
サロン・あべのは
200号

・・・ということで、みなさまから寄せられたいろいろなお話に添えて、サロン紙にまつわるあんな事、こんな話も、ごいっしょに。

共に楽しむサロン

サロン伊丹 砂脇たけ子

今年で「サロン伊丹」を開いて5周年を迎えました。1月にアルパ(パラグワイの楽器で小型のハープ)の5周年記念コンサートを皆さんと楽しみました。

〈サロン・あべの〉の冨田さんと初めてお目にかかってから、もう6年以上になります。何をどう始めたらよいのか悩んでいた時、冨田さんと出会い、私たちのやることがはっきりしてきました。

サロン活動も、仕事を持っているメンバーばかりでしたので、無理のないように楽しみながら続けてきました。

「サロン伊丹」の紹介からさせていただきます。

メンバーは7名、活動の拠点は特別養護老人ホーム伸幸苑、ホームの入居者と地域の方たちとの交流の「場」づくりです。外出がままならないホーム入居者と、地域の方たちが一緒に音楽を楽しみ、一緒に歌い、ふれ合う時間を共有できる「場」も少しずつ定着してきました。年5回の活動と、年7回の入居者の方たちとの話し相手や外出、ハーモニカの伴奏で歌を歌っています。4月はお花見会、6月はコンサート、9月はハープでのリース作り、11月はポストカード作り、1月はコンサート、と私たちメンバーも大いに楽しんでいます。

以前、ピアノのクラシックコンサートを開いたときがありました。特別養護老人ホームですので、痴呆の進んでいる入居者も沢山おられます。退屈されないか心配しましたが、そんな心配は無用でした。皆さんが感動されて、ピアニストに「とてもよかった。また来てね」と大きな声で言われたのでした。私たちが心がけることは、本物を届けること、それがとても大切だということでした。

また、冨田さんに紹介していただいた、

「ワインのお話」の中村さんも印象深い素敵な方でした。ハンサムなソムリエ、前日より東京から駆けつけていただいて、ワインのお話、旅のお話、ワインを試飲しながら、楽しい時間を共有しました。

私たちの自慢？は、夫たちも一緒に参加することと、来ていただいた方が、感動してくださることです。

これからも、細くてもいいから、楽しみながら長く続けようと決意を新たにしています。

小さな灯を いつか誰かの胸に

小さな友の会 阪井健二

「小さな友の会」の初めての1歩は、約10年前、当時身体障害者療護施設に入所されておられた奥塚さんと私の2人で踏み出しました。

列車事故で両腕を失った奥塚さんは、その障害を負った苦悩と挫折感からまだ十分に立ち直ってはおられない時期で、別の近くの施設でボランティアをしていた私と偶然出会い、施設を出て地域で暮らすことを夢見ていた奥塚さんと、先行きが見えずに手さぐりで自分の道を求めていた私の思いが一つになって生まれたのが「小さな友の会」です。

はじめの頃は、毎月1度施設から奥塚さんを連れ出し、私の家に1泊しては各地に出会いを求めて2人で訪ね歩く活動が続きました。そんな活動のある日の出来事ですが、いつものように施設にはきちんと外泊届けを出して私の家に泊まり、翌日の夜予定通り施設に戻ると、まだ門限までには時間があるのに施設の入口の扉が閉ざされていたのです。宿直の職員のいる部屋は2階です。奥塚さんはその2階の部屋に声が届くように「すいませーん」と何度も大きな声で叫びました。自分の家でなく施設で暮らすということはこういうことなのかと私は強いショックを受けました。その時の奥塚さんの声は何年も経った今も私の耳の底に響くように残っています。しかし、当時の奥塚さんには施設以外帰る場所はなかったのです。それから奥塚さんが施設を出て地域で暮らしを始めることに関わる中で、施設でなくても、地域においてさえ、私達は誰かが自分の存在に気づいてほしくて叫んでいる声を聞き逃していることが多いことに気づくようになっていきました。

震災後の仮設住宅での毎月の「こころの集い」の開催から、今は地元岸和田に移して月に1度の集いを続けています。毎月の参加者数は減少傾向にあり、この2月の集いの時は定刻になってもゲストと私の2人が顔を向き合わせて座っているだけです。い

好評のエッセイ！

岡知史著

□知らされない愛について

□ほんの少しの神に近い部分

◎どちらも・700円

☎06・6691・1028冨田まで

よいよこの会も終わりかと思っていると、幸い少し遅れて阿倍野区の安達尚子さんが来てくれてほっとしました。

もしこの集いがゲストと私以外に参加者がいなくなった時、私はこの会をやめようと思っています。でも１人でも参加者がいる限り、奥塚さんと踏み出した初めの１歩の気持ちを忘れずに、この小さな灯がいつか誰かの胸に届くように集いを続けていきたいと思っています。

「三寒四温」と言われますように寒い日もありますが、陽光の心地よい日も多くなってきました。お変わりございませんか。

「サロン・あべの」紙が、もう２００号になるのですね。本当におめでとうございます。同紙のスタイルも新しくなり、より一層読みやすくなりました。それに伴って、「晴れのち晴れ」にイラストを入れてくださりうれしく思います。

３００号、４００号・・・とお続けください。

敬具

より読みやすい

稲垣恵雄

●２００号　あんな事、こんな話――ゆめ

＜サロン・あべの＞はこの3月末で満17年目を迎えます。いろいろな出会いを求めて毎月集い、多くの方からお話を伺えることは本当に楽しいことですし、学ばさせていただく事も多いです。しかし、その時その場で語られる個人のお話はサロン紙に掲載されません。出会いの報告はその月のテーマの内容が主で、そのテーマから広がっていく何気ない話の中にある言葉はとても掲載しきれません。が、その言葉こそお互いに伝えたいことではないかと思う事があります。サロンが出来た時から、いつかは誰もが気軽に立ち寄れる場所がほしいねと言い合ってきました。念願のサロン紙のホームページも出来ました。それをいつでも見れる場所、また、サロン紙を手に取って読んでいただける場所、があればと思い続けています。サロン紙の音訳テープやさろん文庫の本、それと同じ朗読テープなどを一堂に揃えて、いつでも見たり聞いたり出来る場所があればどんなに楽しいことでしょう。サロングッズも販売しながら、毎月のサロン紙のイラストの展示やサロンの仲間の個展などもさりげなくして、それを眺めながらお茶を飲む人、ヘッドホンで音訳テープを聴く人、パソコンでサロン紙を読む人がいる、そんな風景を夢見ています。サロン紙からいろいろな情報が発信されています。その発信者とサロンで出会った人たちと読者とが、お互いのサロンの「ゆめ」を語っていただければ、実現するかも・・・と夢を見ています。

（け）

植物あれこれ

50

山口康二郎

春蘭―友逝く―

突然の電話は、同僚のM君からだった。T君が倒れた。意識不明の状態だ、という。私にはにわかに信じられなかった。3日前、5日後にせまった同窓会の打ち合わせをT君としたばかりだった。広島県の山村から出て、大阪周辺にいる10名前後の同窓生と60歳になってから、年に1回は顔を合わせて旧交を温め合うのが恒例になっていた。「いつ誰かが欠けてしまっても不思議がない年になったので、ぜひ続けような」。これが彼の最後の言葉になった。

T君の奥さんの「主人が楽しみにしていた同窓会なので、ぜひ中止しないでやってください」との言葉で、予定どおり行うことになった。みんな意識不明が続くT君を見舞った後、集まってT君の思い出を語り合い、奇跡的な回復を期待したが、その3日後、彼は逝ってしまった。

最後の別れの時、菊やフリージアで飾られた彼に手を合わせながら、私の頭に突然春蘭の花が浮かんだ。確か中学1年の修了式の後だった、T君と山に遊びに行った。かなり険しい勾配のところを這うように登っていて、春蘭の群生しているのを発見した。大発見のように2人で興奮し、しばらく見惚れていた。どっちが言い出したのか定かではないが、2人の秘密の場所ということになった。

日本春蘭は本州全域に自生しており、特別に珍しいものではないが、濃い緑の葉の間から薄緑の茎を伸ばし、清楚な花をうつむき加減にそっと咲かせている風情は中学生だった2人にも印象深いものだった。しかし、野球や魚釣りなど、遊びほうけて2度とその場所に行くことなく今に至ってしまった。

葬儀に広島の地元から来た人にその話をすると、「ああ、『じじばば』の事ですね。僕らも知っていましたよ」決して2人だけのものではなかった。T君、今度田舎へ帰ったらあの春蘭を採ってきて仏前に供えるからね。

（日本春蘭を「じじばば」というのは広島だけでなく、広く東北地方までいわれているようです）

美智子のこんな話

岸田美智子

支援費制度の問題点について

4月からいよいよスタートする支援費制度ですが、その内容について大阪市から公表されつつあるところです。その内容を見ると、非常にいろいろな問題が明らかになってきています。例えば、身体介護のホームヘルプサービスと日常生活支援のサービスは、国では併用できることになっていますが、大阪市では今のところ認められていません。そうなると今まで24時間介助が必要な重度障害者は社会福祉協議会などからのホームヘルプサービスと全身性障害者介護人派遣事業の併用で生活を組み立てていたと思うのですが、これができなくなります。おまけにこの二つのサービスは単価が2倍以上違います。身体介護は4300円で、日常生活支援は1800円なのです。この格差の問題で週18時間の上限を1時間でも越えると日常生活支援を使っていくしかなくなり、そうなると事業所に入る支援費額、ヘルパーへの給与に大きな影響をもたらしてしまいます。長時間介助の必要な方を受け入れる事業所がますますなくなってしまう危険性があります。またガイドヘルパー制度は移動介護になりますが、その中で身体介護を伴う移動介護と伴わない移動介護の2種類が設定され、単価も違います。大阪市としては今のところ単価の低い(1650円)移動介護のみになりそうです。さらにガイドヘルパーには研修が義務づけられていますが、未だにその内容や研修予定も公表されていません。このままではガイドヘルパーに入っていける介助者がいなくなりかねません。

このような問題はただちに私たちの生活に危機感を与えてしまいます。実際に地域での自立生活が成り立たなくなり、施設に入所するしか仕方なくなる自立障害者も出てくると危惧されます。このような問題を今後大阪市との協議の中で話し合っていく予定です。皆さんもその動きに注目しながら必要な介助サービスのあり方を声を大にして、大阪市に訴えていきましょう。

○問い合わせ先
自立生活センター
MY-DO～まいど～(岸田)
大阪市住吉区長居西1-9-12
TEL 06-6609-3133
FAX 06-6609-3210

ありがとうございました。

カンパ・バザー用品・茶・茶菓子の寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。(敬称略・順不同)
黒羽玲子、崎本ヒサエ、竹村定子、寺西美代、仲田孝史、中村久子、平岡太、表谷恵美子、松村順子、吉原和郎、和田保子、その他の方々。

「サロン・あべの」２００号おめでとうございます。

出会い　ふれあい　助け合い。木にぶらさがっている坊や、この木は何の木でしょうね。

「大ちゃんパン」面白い、おいしそう、食べたいナ・・・

隣組ニュースの出会いの案内に参加したいと思うことしきり。でもなかなか無理ですワ。

過日、私の姉に送って頂きました糸でんわ様音訳のテープ、くり返し聞いて、とても感謝していると申しております。ありがとうございました。ご自愛くださいませ。

東　百合子

■この木なんの木、気になる木

お知らせ

〈サロン・あべの〉４月の出会い

内　容…切手の魅力～使用済み切手の行方～

お客さま…宮崎隆正さん

（「まごころの集い社」切手部長）

日　時…４月19日（土）午後１時～４時

場　所…育徳コミュニティーセンター２階

研修室（スロープ・車いすトイレ有）

大阪市阿倍野区阪南町５－15－28

電話　０６－６６２１－１９０１

最寄り駅＝

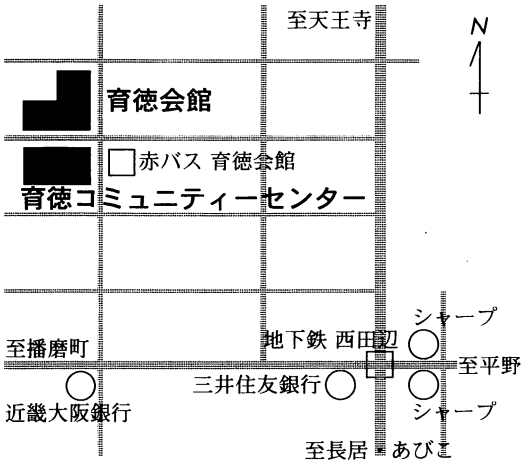
地下鉄御堂筋線「西田辺」

赤バス「育徳会館」下車すぐ

会　費…なし

問い合わせ先…

電話　０６－６６９１－１０２８（冨田慶子）



サロンの一筆箋

１冊１００枚綴 ¥１５０

SALOON 隣組ニュース

■「サロン淀川」４月の出会い

日　　時：４月20日（日）午後１時30分～４時
場　　所：淀川区民センター「やすらぎ」
　　大阪市淀川区三国本町2-14-3
内　　容：中国四千年のプチ文化講座～１度は行ってみたい中国。中国語講座もあります～
パネラー：田原裕会（ひろえ）氏（中国文化に魅せられ２年間留学）
会　　費：なし
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビューロー）☎ ０６－６３９４－２９００
　　E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・ひらの」４月の出会い

日　　時：４月26日（土）11時～15時
場　　所：平野公園（平野２丁目）
最寄り駅：地下鉄谷町線「平野駅」下車
内　　容：お花見
会　　費：１５００円（お弁当・飲み物代含む）
申し込み締め切り：４月19日
問い合わせ先：高橋☎ ０９０－４４９７－０６３５
　　足立☎ ０７０－５９３１－５２９９

■「サロン・にし」４月の出会い

日　　時：４月12日（土）午後１時30分～４時
場　　所：西区ボランティア・ビューロー室
　　大阪市西区新町4-5-14　6階（西区役所隣）地下鉄＝西長堀駅4-A号出口からすぐ　市バス＝地下鉄西長堀駅からすぐ
内　　容：車いすの操作方法と介助方法を学ぼう！
会　　費：なし
問い合わせ先：関口 ☎ ０９０－４２８１－５６４１

■「サロン・にしよど」４月の出会い

日　　時：４月26日（土）午後１時30分～３時30分
場　　所：西淀川区在宅サービスセンター
　　「ふくふく」　大阪市西淀川区千舟2-7-7
内　　容：未定
会　　費：なし
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
　　☎ ０６－６４７８－２９４１
　　中本 ☎ ０９０－４４９７－０６３５

■サロン『アイ』４月の出会い

日　　時：４月12日（土）午後１時30分～４時
場　　所：生野在宅サービスセンター
　　「おかちやま」２階ボランティアルーム
　　大阪市生野区勝山北３－１３－２０
内　　容：出会い・ふれあい　サロン17年
パネラー：冨田慶子（サロン・あべの）
会　　費：なし
問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビューロー）☎ ０６－６７１２－３１０１

■《てくてく・すみよし》４月の出会い

日　　時：４月６日（日）11時～15時
内　　容：大阪府立弥生文化博物館見学（和泉市）
集合場所：JR阪和線「信太山」駅前
集合時間：午前11時
参加費：３００円（身障手帳のある方はご持参ください）
個人負担：昼食（駅前にスーパーがあります）・交通費
申し込み締め切り：３月末日
申し込み・問い合わせ先：
　　山本篤江 ☎ ０６－６６９２－８４１１

■「サロンつるみ」４月の出会い

日　　時：４月６日（日）午後１時30分～４時
場　　所：鶴見会館２階
　　大阪市鶴見区横堤５－５－５１
　　（地下鉄鶴見緑地線横堤駅５番出口）
内　　容：日本伝承の折り紙を使って、楽しく遊びましょう
パネラー：砂川一雄氏
会　　費：なし
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）田村 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」４月の出会い

日　　時：４月６日（日）午後１時40分～３時30分
場　　所：昆陽池広場・たんたん小道
内　　容：お花見
会　　費：なし
問い合わせ先：砂脇☎ ０７２７－８４－００５７（午後７時以降）

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第200号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

(a) 〈サロン・あべの〉紙は、第１号より第200号までそろっています。
(b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
(c) 絵本「未知の記憶」（作・絵 中川勝彦）
(d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分（３０分）
(e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」（岡本栄一著＝糸でんわ音訳）
(f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」（山田誠１９９５・２・２２著 ＝糸でんわ音訳）
(g) 「金子みすずへの旅」（島田陽子著＝糸でんわ音訳）
(h) 「夕やけ空のオニヤンマ」（牧口一二著＝糸でんわ音訳）
(i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」（曽我部教子著＝糸でんわ音訳）
(j) 「セルフヘルプグループ」（岡知史著＝糸でんわ音訳）
(k) 「名物　天王寺かぶら」（猿田博創作　難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作）
(l) 「知らされない愛について」（岡知史著＝ぽけっと音訳）
(m) 「愛　ひとり旅」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(o) 「もうちょっと知っとく？　私たちの阿倍野」（難波りんご著＝糸でんわ音訳）
(p) 「猫とシャンソン」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(q) 「ほんの少しの神に近い部分」（岡知史著＝糸でんわ音訳）
(r) 「勁くしずかに」（河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳）
(s) 「たまごが　ポン！」（稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳）

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、冨田（☎０６・６６９１・１０２８）まで。

寄りみち

200号からの表題について「縦書きはどうなの？」と、ご意見をいただきました。本紙は個別宛に発送する他に、出来るだけたくさんの人たちに読んでもらおうと、育徳コミュニティーセンターなど数カ所にも置かせてもらっています。どこもみな、駅売店のようなレイアウトで紙面の上の部分だけが見えるように展示されています。ですから表題は「横書き」でないと…、ご理解いただけますか。（石）

＜サロン・あべの＞VOL. ２０１　発行：平成１５（２００３）年３月１５日　定価￥１００
編集人：＜サロン・あべの＞運営委員会　表題：中西利香・筆　文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６ 冨田慶子方＜サロン・あべの＞
TEL・FAX 06-6691-1028　郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印　刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターＤビル２Ｆ TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、http: //pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/

発行人：関西障害者定期刊行物協会［大阪市城東区東中浜2-10-13 緑橋グリーンハイツ１Ｆ］

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）